



アサリ

ヤマトオサガニ



Q アマモ場とは？

A アマモは、水深1～数メートルの、波が静かな浅瀬の砂地などに生える海草（種子植物）で、栄養塩類を吸収したり、光合成により酸素を供給したりします。

海底一面にアマモが生えているところを

「アマモ場」と呼びます。アマモ場には魚、

貝、エビ・カニなどいろいろな種類の生き

物がすんでいるほか、アオリイカなど様々

な魚の産卵場所や稚魚が育つ場所となる

ため、「海のゆりかご」とも呼ばれます。

千葉県ちばけんの富津干潟ふつつや横須賀市よこすかの走水海岸しりみずかいがしに

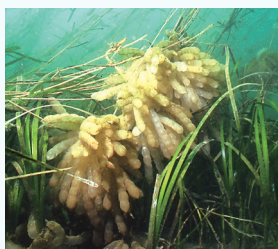
はまとまったアマモ場が見られますが、埋め

立てや水質汚濁により東京湾のアマモ場は

昔と比べ激減しました。近年、国や自治体、

NPO、企業など、多様な団体によりアマモ場

再生のための取組が行われています。



アオリイカの卵



タツノオトシゴ

とうきょう わん

東京湾のいきもの

◎東京湾でよく見る鳥（とうきょうわんでよくみるとり）

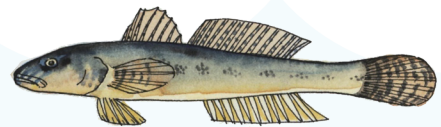
カワウ



いちねんとおみみずもくさかなと
一年を通して見られる。水に潜って魚を捕る。

◎東京湾でよく見る魚（とうきょうわんでよくみるさかな）

マハゼ



はるさきちしぎょかこうふきんひがたあらわせいちょう
春先稚仔魚が、河口付近の干潟に現れ、成長する

につれて、いろいろなところへ散らばっていく。河

口や内湾でU字型の深い穴を掘って産卵する。

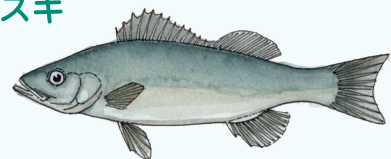
ボラ



かせんかりゅうぶないわんひろふんぶ
河川の下流部～内湾に広く分布する。ドロ底の有機

物などを食べる。

スズキ



かせんかりゅうぶないわんひろふんぶとうきょうわんだいひょう
河川の下流部～内湾に広く分布する東京湾を代表す

る魚。河口の干潟などでは、春先、数cmの稚魚がた

くさん現れる。出世魚でセイゴ、フッコ、スズキと大き

さで呼び名が変わる。

